

中学生「税についての作文」コンクール 近野未沙紀さん 藤井妃さん 會田ほのかさんが入選!

この「税についての作文」コンクールは、国税庁が毎年11月11日から17日までを「税を考える週間」と定め、期間中広く国民の皆様は税の意義や役割を理解していただくために実施したものです。

福島県内で、総数5,611編（148校）の応募がありました。その中で、小野中学校から近野未沙紀さん、藤井妃さん、會田ほのかさんが入選されました。

入選おめでとうございます。

入選された作品をご紹介します。

仙台国税局長賞（佳作）
近野 未沙紀さん（小野中学校3年）



「税のありがたさ」

税とは何か。もし、ほんの少し前の私がこう聞かれたら、きっと何も答えられなかっただろう。しかし私は、この作文を書くにあたって、税について、いろいろと考えてみた。まず私は、税は私達には関係がないもの、という先入観があった。しかし、よく考えてみると、私達も消費税という形で税を納めている。子供は税とは無縁、という考えは大きな間違いだったのである。どんな形であれ、五歳の子供でさえ税を納めている。私は立派な納税者だ、と自信を持って言うことができるのだ。

子供が税を納めている、ということとは、当然大人は、もっとたくさん税を納めているのだろう。そう思って資料を見てみると、税にもいろいろな種類があることが分かった。

私の家は株式会社だ。家にはトラックがたくさんある。その観点から税について調べてみると、およそ二十種類もの税を納めていることになる。その数に私はとても驚き、会社を経営することは大変なのだ改めて思った。

こうなると、この納めた税は一体何に

使われているのか気になってくる。調べてみると、税金は私達国民のために使われていることが分かった。私達学生がこうして学んでいる学校も、私達のお父さんやお母さんが納めた税によってまかなわれている。教科書が無料なのは、税金があるからである。こうして税についての視野を広げてみると、税のありがたさがよく分かる。税だけでなく、その税によって作られた、たくさん物の大切さがよく分かる。

まず私達がしなければならぬことは、税の使い道について関心を持つことではないだろうか。最近は公共物を大切にしない人が多い気がする。大人も子供もそうである。これは、税の使い道についてよく分かっていないからだと思っ。もし子供が、学校で使っている机や、教科書など全てが、お父さんやお母さんが汗水垂らして働いたお金からできていると知っていたら、それらを乱暴に扱ったりするだろうか。大人が、町にありふれているたくさんさんの公共物が、自分の納めた税からできているとしっかり認識していたら、それらを粗末にするだろうか。私だったら絶対にしないと思う。

税に関心を持つことは、税のありがたさを知るだけでなく、それによってつくられた物の大切さを知ることにもつながる。また、日本人の、物を粗末にする心を変えてくれるのではないだろうか。だからこそ、未来の日本のためにも税をきちんと納め、同時に税をしっかりと見つけていくことが大切なのである。すばらしい日本の未来をつくり上げていくための税なのだから。